

論点と議論「中間まとめ」(案)に対する県議会造林公社問題対策特別委員会(H21.6.10)における意見

番号	意見
1	当初の計画で、黒字の方向の計画があったが、その計画に沿った検証というのではないのか。
2	<p>中間とりまとめでは、細部にわたって我々が感じているところは、検証委員会の中ではもっと項目を絞ってという指摘もあるようで、当然県民には報告をしなければいけないし、併せて将来展望も示さなければいけないと思う。</p> <p>今回の検証の中で、よその公社と滋賀県の不採算林の率、50%が不採算林ということがこの公社問題を大きくしているのではないかと。木起こしなどして金を使っている割にそれが現実的に表れていない。不採算林がどれだけあるとか等のことを第三者委員会に言っているのか。</p> <p>融資制度で始めたのと、補助事業で対応したのとでズレがある。然るべき時に補助事業に切り替えているが、仮に当初から補助事業でやっていけば、その差額はどの程度になるのか。</p> <p>この問題については、最終的に誰かの責任であったということを言うのか。そんなことは言えないのではないかと。</p> <p>知事のマニフェストで公社の債務を半分にするということであったが、そのことの検証はどうするのか。</p> <p>皆伐や、列状間伐といっても金にならない。そういうことも検証してもらわなければならない。</p> <p>琵琶湖を抱える滋賀県で、1万haを売げ山にして、後は放っておくということだが、環境立県としての滋賀県で、本当にそれでいいのか疑問を持っている。</p>
3	<p>資料(要旨)P.4-35行目からの3行について</p> <p>「公庫から全額繰上償還が迫り特定調停に移行した」とあるが、確かにそうかもしれないが、元々は、利息の償還を止めて、2度あることは3度はないと言われて全額繰上償還を迫られたという事実関係であったのではないかとと思うが、その交渉の中でどうだったのか。</p> <p>「包括外部監査で特定調停もあり」というのは、公社でやっていこうとするのであれば、まず債務圧縮をするべく特定調停をし、それぞれの債務圧縮を確定し、ちゃんとした経営計画を立ててやって行けという提言であったと思う。「…特定調停に至り、結果的に公庫と免責的債務引受に至ったこともやむを得ない経過と考えられる」とあるが、本当にやむを得ない経過であったのか。その間に、県として為すべきことを全てやって、そこに至ったのか。</p> <p>議会としては、期間がなく、この債務引受を認めざるを得なかったという思いであったが、一括繰上償還の事実が目の前にくるそこまで、ここでは全く問題がなくやむを得ないと書いているみたいだが、特定調停に至ったが、結果的には公庫自体は何も債務圧縮をしていない。この3行については事実関係と一致しているのか。</p> <p>損失補償の原則に戻って、債務圧縮が実現しなかったのであれば、公庫を相手取って、特定調停を申し立てるであるとか、債務圧縮を求めるというのは、最初からアカンかったという話。滋賀県が無茶をただけの話。何もしなければ、公庫分については今までどおりであって、これから国に対応を考えてもらうという手法もあったわけである。</p> <p>この間の経過は、公庫とは免責的債務引受に至ったということは仕方がなかったことであるというのは、おかしいような気がする。</p> <p>利息の支払いを止めて、それからの県が直接に債務を引き受けた間の検証をしてほしいという話が議会で出ていたが、ここは少し簡単すぎるのではないかと。</p> <p>利息を止めて、予算化をしなかった。話し合いをしている間にはいいが、このマニフェストを掲げて半分に値切るのはいけない、約束違反だという文書が公庫からきて、その後いい加減に利息を払ってくれという話があった。そこは我々(議会)も予算を積みとすべきであったのかも分からないが、基本的には利息は払わないということはずっと押しつけてきた。そのことが一括償還を迎えることになってきた。</p> <p>そのことが、自然な流れである、と中間まとめでは書かれていると思うのだが、ここは致し方のない流れであったとは思えない。</p>
4	<p>極論として、造林公社の問題というのは何か、その中心にあるのは何かという結論がほしい。</p> <p>山に責任があるのか、時代に責任があるのか、人に責任があるのか、の結論を言わなければいけない。</p> <p>失われた1年ちょっとの間に23億円が上乗せされた。その責任が誰にあるのかということも言わなければいけない。</p>
5	<p>別冊資料(P.31-資料22)について</p> <p>事業費や管理費について、経費上昇率は一切見込まないと書かれているが、これは人件費も含めて見込まないということか。</p> <p>別冊資料(P.30-資料21)について</p> <p>プロパー職員の数が、当初から数年間の間でどんどん増えていっている中で、最初から分かり切っていることを当初にどういう設計をしていたのか疑問。当初の見方も甘かった。</p>
6	<p>1,080億円という大きな県民への負担だが、この検証委員会の結果で本当に県民に理解してもらえるのか。</p> <p>やはりどこに原因があったのかを打ち出してもらえないといけないと思う。</p>